

第2回グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議・議事概要

日時：平成24年2月1日（水）午後2時～

場所：オークラ千葉ホテル3F エリーゼ

1 知事あいさつ

- ・本日第2回の会議だが、この間にも成田空港では国内線（神戸・新潟）・国際線（ボストン・サンノゼ・デュッセルドルフ）の新規就航など新たな動きが起きている。
- ・現在、県では「きらきら房総誰と行く？」をキャッチフレーズに、早春の観光キャンペーンを実施しており、魅力溢れる早春の房総を、成田空港を利用して堪能していただきたい。
- ・本日の会議では、こういった取組みをも含めて、成田空港を活用した県経済の活性化についてパワーアップ30万回ビジョン検討プロジェクトチームの検討結果を初めとしたプレゼンテーションを行う予定である。委員の皆様からは、活発な御議論を頂きたい。

2 主なエアラインの成田空港における戦略等について

（千葉県・高橋総合企画部長から資料2により説明）

- LCCを中心に主要な航空会社に対してヒアリングした結果報告を行う。
- 本ヒアリング調査は、エアラインの今後の就航計画及びエアラインが成田空港に就航するに当たって課題と考える点を把握することによって、今後の戦略会議やプロジェクトチームでの議論に活用することを目的とする。
- 国内のLCC、ローコストキャリア4社と国外、海外のFSC（フルサービスキャリア）4社を対象とした。LCCとしてはエアアジア・ジャパン、ジェットスター・ジャパン、スカイマーク、FSCは日本航空、全日本空輸、キャセイパシフィック、シンガポール航空に対してヒアリングを実施した。
- ヒアリング内容としては、LCCに対しては路線選定の理由やターゲット顧客層を中心に、FSCに対しては成田空港の活用方針や成田発着で可能性のある増便路線を中心に聴取した。また、成田空港就航に当たって改善を望む点についても聴取。
※各エアラインヒアリング結果の詳細については資料2を参照

3 成田空港を活用した経済活性化戦略について

（事務局長・坂本副知事から資料3により説明）

- 従来、成田空港は首都圏のゲートウェイとして人・物・財は主に都心へと流れていた。30万回化により、国際、国内、ハブ機能の強化、ビジネスジェット対応の充実強化、LCCの就航による新規需要や国内線の拡充による県民利便性の向上と

いった新しい効果が出てくることが期待されている。

- これからの成田空港は、首都圏だけのインフラではなく、北関東をも含むような広域的な人・物・財の流れを創出する可能性を有している。この可能性の実現のためには様々な戦略が必要である。
- 昨年10月から県庁内の関係各課による「パワーアップ！『30万回ビジョン検討プロジェクトチーム』」を立ち上げ、成田空港を活用した経済活性化政策について議論を進めている。
- プロジェクトチームの広域活性化部会・情報発信部会・国内線活用部会の3つの部会で議論を進め、四つの戦略をまとめた。

戦略1：30万回化で拡大する人・物・財の流れを活かす

- ①ビジネス・観光の目的地の育成や魅力向上に取り組む
- ②成田空港という優位性を活かした産業振興に取り組む
- ③国内線を積極的に活用する仕組みを作る

戦略2：県内外を成田のスムーズな人・物の流れを強化する

- ①新たな顧客である国内線利用者の利便性を向上させる
- ②空港から県内外の目的地までの交通アクセスをさらに充実させる

戦略3：成田空港を初めとした千葉県の様々な宝を積極的に発信していく

- ①千葉の魅力を国内外に広く発信していく
- ②成田空港のアクセス向上・機能充実をきちんと知ってもらう

戦略4：成田空港の活性化に向けて総合的に取り組む

※詳細については資料3を参照

4 国における外客誘致の取り組みについて（観光庁）

（観光庁外客誘致室吉田室長から資料4により説明）

- 観光について脚光を浴びたのはここ最近で、2003年の小泉総理の施政方針演説の「2010年に訪日外国人旅行者数を倍増させる」発言以降、観光立国という言葉が取り上げられ、18年の観光立国推進基本法の成立、平成20年の観光庁設置、その後ビジット・ジャパン・キャンペーンなど、色々な展開をしている。現在の目標は将来的に訪日外国人3000万人である。
- 観光立国の意義としては、国際観光推進による諸外国との健全な関係の育成、交流を通じて我が国のソフトパワーを強化する、少子高齢化時代において需要を作り出すために観光を使って経済を活性化する、交流人口の拡大により地域経済の起爆剤とする、地域づくりを通じての国民の生活の質の向上などである。
- インバウンド観光の現況として、訪日外国人の旅行者数の2003年からの推移は、2007年までは比較的順調に伸びたが、経済状況、インフルエンザ、サーズ等々の影響で落ち込み、2010年に861万人、その後、2011年の大震災により

4月は最大に落ち込み62.5%減、その後、様々なPR活動、正確な情報発信などにより12月には11.7%減まで回復した。

- 個人的見解ではあるが、千葉県の観光振興のポイントとして、訪日客を千葉の観光に取り込んで地域振興につなげるのが重要であり、そのためには、積極的に地域の魅力を発掘し、育て、発信することが重要。その際には、ターゲットを明確にする必要があり、また、千葉という全体で見るよりも、成田や南房総、浦安といった、観光地のブランド化を図っていく方が県全体の観光振興にも近道ではないか、また、受入態勢として地域ぐるみで外国人観光客を受け入れることにコンセンサスが必要であり、国によって異なる訴求ポイントを押さえる必要もある。また、情報発信はトップセールスも含めて計画的に実施することが必要。

※吉田室長発表を受けての森田知事発言

- 最近、韓国が非常に盛り上がっているのは、ドラマなどの映像の影響であり、韓国は以前から計画的にやっている。
- 例えば有名人を連れてきてイベントをやっても一過性である。日本を売るというのは、5年、10年かけて下地からやる必要があるし、PRというのは2階建てである。有名人を連れてくるのは2階の方で、1階をきちっとやらなければ、上だけやっても意味はない。
- シンガポール訪問の時も、千葉を誰も知らなかった。1年、2年かけて、皆で取り組んでいかなければならない。

5 意見交換（※発言順）

○京成電鉄 神子田常務

- ・鉄道事業者やバスに対する期待が非常に高いと感じている。我々も様々な取り組みをしてきているので御紹介したい。
- ・成田スカイアクセス開業に合わせ、新型スカイライナーを上下線合わせて13本増発して54本とし、一般特急についても、本線経由はほぼ従来並みに維持しつつ、成田スカイアクセス経由の特急を51本設定した。これにより空港発着の特急が合計202本になり、成田アクセス開業前の140本と比較して約1.4倍となった。
- ・一方で、乗車効率の面では大変厳しい状況にある。
- ・LCCの乗り入れについては、エアアジアやジェットスターとは既にコンタクトしており、少しずつ事業計画ができれば教えてもらうことになっている。動向を見ながら、お客様にとってより利用しやすいような検討を行っていきたい。
- ・深夜・早朝の時間帯については、鉄道の場合、午前1時から4時45分の3時間45分は鉄道施設の保守管理のためにどうしても必要で運行できない。その点はぜひ御理解いただきたい。

- ・また、早朝時間帯については、実は5時7分の日暮里発・6時40分空港第2ビル着の列車があり、これは山手線の始発に合わせており、空港で働く方々の通勤電車ともなっている。このように、連絡についても色々考えながらダイヤ編成をしている。
- ・成田と羽田のアクセス比較だが、鉄道は、成田308本、羽田空港853本であるが、羽田にはモノレール530本が含まれており、それを除くとほぼ同数。高速バスについては、成田1056本、羽田が2058本であって羽田が多いが、1日当たりの航空旅客数を見ると、23年度の推定値で成田が7万9000、羽田が17万6000でほぼ倍である。これを1本当たりの旅客数に割り返すと、荒い計算ではあるが、1本当たり成田で58人、羽田が60人ということで、ほぼ同じようなアクセスを提供していると言っていいと思う。
- ・今後、LCCなどがどうなっていくかわからないので、深夜・早朝については、京成バスを中心に色々と考えていきたいと思っている。

○県バス協会 大室会長

- ・戦略の方向性で、早朝又は深夜のアクセスについては、現在、羽田に関しても、一昨年10月の国際線の就航に合わせ、空港バスの早朝深夜便を新たに設定した。羽田のバスの便数や路線数が多い理由は、所要時間や運賃など、いろいろな面で鉄道より優位であることが挙げられ、実際、千葉県在住の従業員もほとんどがバス利用である。バスの方が早くて乗り換えの不便さがなく、運賃も鉄道とそれほど遜色がない。成田についても、LCCの就航等があるが、早朝・深夜便があれば、その需要に応じたバスの対応というのは十分考えられる。
- ・県内から成田空港に行く路線が少ないのは、羽田とは逆に鉄道・マイカーの方が優位であるという点や、実態として便当たりのバス利用者が少ないというのもあり、バス事業者としてもなかなか増便に踏み切れないところもある。
- ・現在も成田空港線の割引は様々あり、特に、Yキャット成田空港線やTキャット成田空港線など、他の路線でも割引がある。戦略にもあるが、過当競争はよくないが、競争による運賃の引き下げや、お客様の利用に応じた、又はLCCの就航を踏まえた割引施策といったものも視野に入れて対応していくべきかと思う。いずれにしても、今年の夏以降、新たなバス路線の展開をしていくことになるのではないかと。

○県タクシー協会 岩佐会長

- ・成田空港のタクシーは、現状としてはあまり仕事がない状態であり、お客様が増えることに対しては期待しているが、運賃については認可制であるため、大幅な値下げなどは難しい面がある。ただ、今後の利用増についても十分対応は可能であるし、国内便も増え、例えば、北海道から団体で来ていただくとか、色々な方が

成田に来ていただければ非常にうれしい。タクシー業界としても十分に対応していきたい。

○千葉インバウンド促進協議会 池田会長

- ・本協議会も平成17年に設立し、民間と一部行政を絡めて誘致の活動をやってきたが、この間、色々な逆風があり、中々思うような結果が出ていないのが現状。
- ・私も海外に出かけるが、千葉の認知度が低く、海外に行くとは必ず本屋に行くが、昨年台湾に行った時に見ても千葉は全く紹介されておらず、台湾のお客様も成田は千葉県という認識がなく、東京という括りの中で成田を利用している。成田に多くのお客様が来ている中で、なぜ滞在してもらえないかと言うと、やはり、我々民間も、まあ成田に来ているから黙っていても来てくれるだろう的に、あぐらをかいていたのが正直なところではなかろうかと思う。
- ・こここのところ、アクアラインが800円になり、大型バスも2000円を少し超える程度の価格ともなり、成田空港のアクセスは以前と比べ大幅に改善されている。
- ・羽田と成田を絡めて千葉県に誘致する意味では、両空港ともパートナー空港だと思っているが、成田で30万回を実現し、利用客を増やすには、やはり海外のお客をどれだけ増やすかということだと思う。メディアで日本の人口減が取り上げられたが、観光業にとっても大きな問題であり、海外から観光客を誘致し、受け入れるということが、やはり県内の大きなキーワードになってくると思う。
- ・知事や県の方でも検討されているカジノなど、何か新しい施設や、それを機能的に使い、成田で滞在し、かつ千葉県でお金を落としてもらえる仕組みを私どもも提案し、作っていきたいと思っている。

○知事

- ・そういう意味ではインドが人口も増えているし狙いと思う。そういったところを戦略的にやっていったら、来てもらえるかも分からない。

○日本旅行業協会千葉県地区委員会 中村委員長

- ・観光庁資料の41ページに日本人が千葉県にどのように宿泊しているかという数字があるが、県内で細かく見るとおそらく舞浜や浦安辺りに集中している感じがする。県内全域に広げていくには、やはり各エリアの魅力をアップし、各地域のブランド化を図って広めていくという対策が必要と思う。
- ・旅行業協会としてすぐ協力できることを考えたが、千葉県内に限らず、関東エリアなどの各区の会員(旅行会社)の窓口にも、情報発信として千葉の魅力を発信すれば、販売サイドとしても知識が高まり、お客様に御案内もできるようになるのではないか。また、国内の就航先の修学旅行に連携した取組みや修学旅行のコンテンツを作ることに限らず、我々の会員各企業で協力ができると思う。

○千葉県経済協議会 市野会長

- ・事業者の方々の話を聞き、それぞれ前向きであるし、今すぐにできることをやらなければいけないと思う。
- ・本日の会議では課題もいいアイデアも出ているが、それを10年かけてやっても仕方がないので、時間軸と、それからどう進めていくかが重要。県・市町村でできるものや、各事業者ができる部分、国の力がないとできない部分といったところを整理して優先順位をつけ、できるところから順次やっていくべき。
- ・旅行者へのPRは重要だが、その前に、受入態勢やその整備状況などのチェックが必要である。また、千葉には宝があると言うが、自己満足にならないよう、また、他の旅行者などの方々からよくわかるようにする手順も必要である。これから皆で知恵を出し合い、手順や役割分担などを整理すれば、すぐにでも力を入れていけると思う。そういう段取りをやっていただきたい。

○千葉県商工会議所連合会 石井会長

- ・「成田空港を利用した経済活性化戦略」には県政の重要課題が網羅されていると思う。市野会長と同意見だが、今後、どういうレベルの議論をするかということが重要。
- ・観光庁の資料も大変参考になった。今日参加の分野の人たちが国際交流といったものをまずやっていくことが重要と思う。
- ・去年、知事がシンガポールと台湾に行って、台湾で経済交流をやろう、商工会議所の会長に言っておくと発言されたので、今年の8月、商工会議所で台湾に行く。
- ・全体としてはスピード感が大事で、戦略をどういうスピードでやっていくかが重要。
- ・千葉には留学生が多く、千葉大だけでも1000人以上の留学生がおり、その8割から9割がアジアからである。千葉県全体となれば大変多くの留学生がいるので、こういった人たちに協力してもらおうというのも一つのアイデアと思う。

○坂本副知事（事務局長）

- ・県ではチーバくん大使という取り組みを実施しており、留学生を大使に任命し県内旅行に行ってもらい、母国語でブログなどの情報発信をするという事業を今年から始めた。さらに、御指摘を踏まえましてやっていきたい。

○千葉県商工会議所連合会 石井会長

- ・それも聞いている。留学生の人たちに会ったが、非常に高学歴で、母国に帰ったときに影響力が大きい人たちだと思うので、ぜひ活用を検討すべきと思う。

○成田市 小泉市長

- ・今年はLCC元年と思っており、LCCの就航をどう活かすかが課題。既に就航している旭川線ですが、北海道はパークゴルフの発祥の地であり、プレイヤーが多い。旭川は冬の半年間雪と寒さでプレーできないので、パークゴルフ協会の会長

さんを初めとした役員の皆さんに成田に来ていただいてパークゴルフ場を見ていただいたりもした。残念ながら成田のパークゴルフ場で大会はできないが、酒々井の36ホールのパークゴルフ場なら大丈夫だそうで、ぜひ大会等をやりたいということだったので、パークゴルフツアーという可能性もある。

- ・そういったシルバー世代の方々はお金に余裕もあるし、定期的に海外に出かけたりもしているが、成田空港を利用して泊っているだけと聞いた。成田山などの周辺を案内したら、こんないいところがあるのですねと言われて PR 不足を反省した。また、仕掛けてこなかった反省もしている。
- ・今、写真を撮る女性が増えており、成田空港の離発着を撮影する女性限定のツアーを実験的に実施したらすぐ満員になった。各国の飛行機が飛び、それを目の前で撮影できるのは成田だけであり、羽田、関空、中部は海上なので撮れないので、成田独自の魅力だと言われた。
- ・修学旅行については、千葉県は治安もよく、それも重要なポイントだと思う。農業も盛んなので、体験型としては農業体験のほか、様々な体験をするといったコンテンツの提供も十分可能。自分たちから仕掛けていく必要性を感じている。
- ・要望としては、交通事業者の方々にはLCCの対応で増便や運行便の向上をしていただきありがたいが、LCCの利用者が高い運賃を払って利用するかが若干疑問であり、厳しい無理なお願いになるかもしれないが、低価格の運賃設定についても検討いただきたい。

○多古町 菅澤町長

- ・本日挙げられた課題等を、スピード感を持って解決をしていくことが重要。
- ・前回会議でもあえて発言したが、交通網の問題、警備の問題等、それから空港供用時間の問題などは、LCCの参入時には影響が大きくなってくる部分と思う。
- ・先般、中国の大連のマスコミの方々が多古町に来ていただいたが、空港から20分のところでこういう町があるのかと驚かれた。そこで炊き立ての多古米と大和芋や採れたての自然野菜を添えて食事をお出ししたりして、自然に親しみを持って触れただけ、大変喜んでいただけた。大連に帰って、こういう日本の食の良さ、日本人が親切なことなどをマスコミで触れたいと言って帰られた。些細なことでも、意外と観光の資源になるのではとも思った。そのため、滞在型の農園など、交流のできるような施設が今後必要と感じた。

○芝山町 相川町長

- ・現在成田空港は出国免税だが、例えば台湾では入国免税である。議論や課題はあると思うのですがすぐ実現できるかわからないが、出国の時より帰国した時の方が、お金が余っていれば色々買うと思うので、入国免税についても研究していただきたい。
- ・日本の農産品は世界一安心安全な宝物と思う。この農産品を世界に、特にマカオ、

シンガポール、台湾や韓国といった比較的小さい国に、手を組みながら輸出するのはどうか。現在は放射性物質の関係で輸出が難しいが、いずれ解除になった際を見越し、国、県、空港会社や地元自治体がしっかりと手を組み、その仕組みづくりなど、準備をしておくことが必要だと思う。